

# W;REPORT 13

—レポート—  
男女共同参画社会をめざす 2008.6.27 NO.



特集

ちから  
**パパの子育て力を育てよう!**  
— 4人のパパの子育てに学ぶ —

「育児休業中の生活は楽しかったが、思ったよりも育児は大変だったそうだ。赤ちゃんを一日顔をつき合っていると、ストレスがたまったり、一人目の子は、よく泣き、なかなか寝てくれない、1時間抱っこしてやっと寝たと思ったら、起きてしまうことも多かった。イライラしたときは公園に行ったり、車でスーパーに行ったり、ブラブラしたり、妻と話したりしていた。」

**育児取得第一号**  
 國島さんは、9年前北区の男性職員として初めて育児休業を取得、その後もそれぞれのお子さんの出産後に取得し、計3回の育児休業を取得されている。育児休業中のお話から、まずお聞きした。  
 「小4の長男が生まれたとき、3ヶ月の育児休業をとりました。でも、決して『特別なこと』ではないですよ。妻は民間の福祉職についているのですが、産後休暇2ヶ月と育児休業1ヶ月の計3ヶ月で復帰しないといけなかったのです。ところが、生後4ヶ月で入園できる保育園がなく、自分が育児休業をとることにしたのです。職場がとても理解があり、第二子では7ヶ月、第三子で6ヶ月とらせてもらいました。」



くにしま たけし  
**國島 武さん**  
 30代・公務員・新都市在住  
 小4・小1・3歳のお子さんのパパ

Kunishima Takashi

「育児は親でないとできないことが多いと思うので、育児サービスを利用して保育園のお迎えを他人に任せるのではなく、労働時間を短縮して親が迎えに行けるようにするのが大事ではないでしょうか。公務員には育児休業が三年間とれるようになったり、半日勤務制度ができたそうですが、一日あたりの勤務時間を1〜2時間程度短縮する制度のほ

**子育てを大事に**  
 「育児は親でないとできないことが多いと思うので、育児サービスを利用して保育園のお迎えを他人に任せるのではなく、労働時間を短縮して親が迎えに行けるようにするのが大事ではないでしょうか。公務員には育児休業が三年間とれるようになったり、半日勤務制度ができたそうですが、一日あたりの勤務時間を1〜2時間程度短縮する制度のほ

**子育ても家事もしっかり分担**  
 二人目の育児は、子どももすぐ寝てくれず、機嫌もよく、だいぶ楽だった。三人目は、やはりなかなか寝てくれず、手がかった。後追いもひどく、姿が見えなくなると泣くので、掃除をするにも料理をするにも、子どもをおぶってやっている時期があったそうだ。  
 子どもが病気のときは、夫婦交代で仕事を休んで乗り切っている。医者連れて行くのは、國島さんのほうが多いくらいですが、さすがに三人の子どもを連れてくるのは、病院でもめずらしいらしい。  
 家事も、炊事、掃除、洗濯と何でもやっています。「子どもが生まれる前から分担していましたし、きつと妻から教育されたんでしょね。共働きですから、やっつけていくしかないです。」

「そんな積極的にではなかったですよ。子育てに積極的ではなかったですよ。子育てに積極的ではなかったですよ。子育てに積極的ではなかったですよ。」

**「おやじの会」で学校に関わって**  
 「長男が入学したときなので、もう7年前になります。学校行事のお手伝いをしていきます。運動会でのテント、張り、椅子を出すなどの準備、自転車整理、バトロールなど。終わった後のかたづけもやっています。子どもがお世話になっているので、お手伝いをしようと思って、入ったのがきっかけです。  
 年に4回ぐらい飲み会があって、楽しくやっています。おやじ同士の情報交換もできるんです。全部で今、45名います。おやじの会で活動している父親を見て、子どもたちも何か感じてくれるところがあるかなと。」



みながわ ひろし  
**皆川 洋さん**  
 40代・会社員・北区神谷在住  
 中2・中1・小3のお子さんのパパ

Minagawa Hiroshi

「子どもたちに伝えたいこと」  
 皆川さんは家事は苦にならないほうで、炊事、洗濯、何でもできる。掃除は最近もやっています。子どもたちにもさせている。皆川家には、お手伝いや宿題、学校の準備のチェックリストがあり、やり終えるとチェックすることになっている。身の回りのことがきちんとできる子に育ててほしいからだ。携帯電話もむやみに与えないというのが方針だ。  
 なぜ勉強しなければいけないのかと子どもたちから聞かれるようになったが、できるだけ具体的な例を常に考えておいて、子どもたち

**子どもたちに伝えたいこと**  
 皆川さんは家事は苦にならないほうで、炊事、洗濯、何でもできる。掃除は最近もやっています。子どもたちにもさせている。皆川家には、お手伝いや宿題、学校の準備のチェックリストがあり、やり終えるとチェックすることになっている。身の回りのことがきちんとできる子に育ててほしいからだ。携帯電話もむやみに与えないというのが方針だ。  
 なぜ勉強しなければいけないのかと子どもたちから聞かれるようになったが、できるだけ具体的な例を常に考えておいて、子どもたち

「共働きでも子育てを大事にしたいという國島さんの積極的なスタンスが伝わってきた。うが使いやすいのでは。」  
 「共働きでも子育てを大事にしたいという國島さんの積極的なスタンスが伝わってきた。うが使いやすいのでは。」

特集  
 SPECIAL

ちから  
**パパの子育て力を育てよう!**

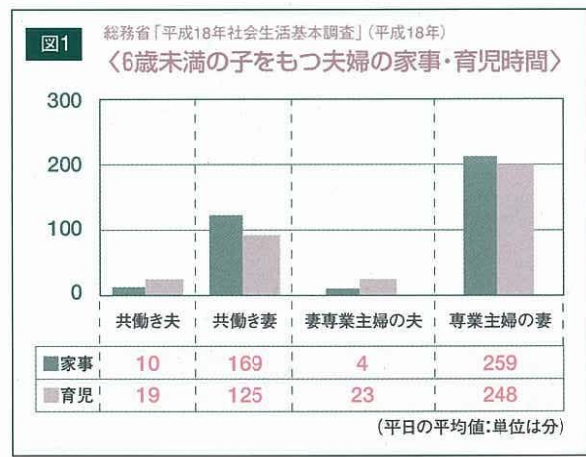
—4人のパパの子育てに学ぶ—



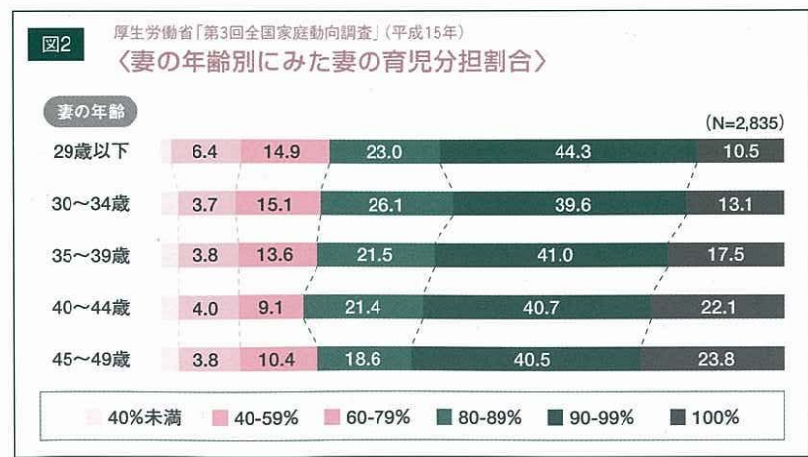
最近子育てに関わるパパが増えていると言われますが、そうなのでしょうか。

関わっているとしたら、どんな関わり方をしているのでしょうか。

区内在住、在勤のパパのインタビューを通して、現代の男性の子育て事情を見ていきましょう。



最近のマスコミの報道では、男性の子育てへの関心は高まりつつあると言われています。けれども統計を見ると、日本の男性の育児分担度は非常に低いことがわかります。  
 たとえば、平成18年の社会生活基本調査を見ると、6歳未満の子どもをもつ夫婦の家事・育児時間は、図1のようになっています。専業主婦の妻をもつ夫が、平日に家事を担う時間は平均4分、育児に携わる時間は平均23分です。働く妻をもつ夫では、平日に家事を担う時間は10分、育児に携わる時間は19分と、育児をする時間は専業主婦の夫よりも短くなっています。  
 一方、専業主婦の妻は、平日に家事を259分、育児を248分こなしています。働く妻は平日に家事を169分、育児を125分こなしています。



妻と夫の担う家事時間、育児時間には、かなり大きな差があることがわかります。  
 次に図2を見てください。平成15年に行われた「全国家庭動向調査」の結果ですが、妻が80%以上育児を担っている層が、どの年齢層も8割前後を占めています。20歳代でも、100%育児を担う妻は1割程度います。男性があまり育児に関わっていないのは、なぜでしょうか?どういった対策を実行すると男性の育児への参画は進むのでしょうか。子育てに積極的な4人のパパへのインタビューを通して、考えてみたいと思います。

に伝えるよう工夫しているそう。大きくなつてきたものが出てきたときに、勉強していたほうが選択肢が広がるだろうとの考えからだ。

今までで一番嬉しかったことはと聞くと、三年前、趣味でやっている合気道の昇段審査を子どもたちが見に来ていて、家に帰った時末娘が「お父さん、かっこよかったー」と言ってくれたことだと、笑顔で答えていた。

Kujirai Satoru



くじらい さとる 鯨井 悟さん  
40代・会社員・北区神谷在住  
小4のお子さんのパパ

子どもと過ごす時間を大事に

鯨井さんは、もともとでしこ小学校(旧第二岩淵小学校)の卒業生なので、おやじの会にも入って、何か役に立ちたいと思ったそう。もともと楽しい行事は、夏休みにPTAが行う『夜の学校探検』。お化けの格好をして、子どもたちをおどかす役をやるのだが、高学年の子は、かわがらみ、むしろ蹴ってきたりするそう。仕事で忙しいから、おやじの会に入るのは無理と考えているお父さんが多いらしいが、そんなことはないですよと鯨井さん。できるときにできることをすればいいので、ぜひ入ってほしいということだった。

平日の夜にやってほしいとか、そういった要望を出しているんですけど。」

思春期も子どもを信頼するのが第一

今、長女が思春期の真っただなか。中学生の子育ては、どんな様子がお聞きした。「昨年、娘が親と約束した時間に帰ってこないことが何度あったんです。少々のことならと思ったのですが、さすがにこれはあぶないな。その時は、かなり娘と話しました。『親にとって子どもの命が一番大事なのだ』ということ、こちらが信頼して出かけてもいいと言ったのに、信頼を裏切るようなことをするのは絶対いけないことだと、話したんです。」

親の役割は、子どもを自立させること

「中学校を卒業するくらいまでには、自分の意見をもてる子になってほしいんです。親の役割は、子どもを自立させることだと思うので。きちんと就職をして、自分の足で立てるように。友だちの意見が自分と違っていたり、おかしいと思ったら、それを相手に言える子に育ててほしいです。」

中学生にもなると、携帯電話がほしいとか、お小遣いが足りないとか、色々言ってくる。そんな時は、どうしているのだろうか。

「言ってきます、言ってきます。うちは、まだ携帯電話は持たせていません。もしこれが、他の家庭とのつきあいがなかったら、よそ

鯨井さんは、昨年まで仕事が忙しく、平日は子どもと過ごせなかったことで、できるだけ休みの日は子どもと遊ぶようにしていた。夏休みは家族三人でキャンプに行き、子どもが自然に触れる機会をつくるようにしている。「女の子なので、あと何年一緒に遊んでくれるかわからない。一緒に行けるうちに思い出を作りたいです。」

子どもが悪いことをしたとき、叱るのはお連れ合いの役目。鯨井さんが、なぐさめ役だ。だからといって、なついているのはパパというわけではないらしい。つい最近鯨井さんがお連れ合いとけんかをして3週間口をきかなかったときも、娘さんは、パパのほうからあやまるようにと言ったそう。けんかしたら、ママにつくよ」とも言われたそう。

できる時に、できる形で子育て

「僕の父は仕事だけだったので、ほとんど一緒に遊んだ記憶がない。今は、父親もできる範囲で家事、子育てに関わったほうがいいと思う。」と鯨井さん。子どもと一緒に風呂洗いをしたり、トイレ掃除をしているそう。子どもに身の回りのことは、自分でできるようにさせていきたいからだ。妻の負担が軽くなって、少しでも家族の時間がとれればいいのではと思っている。

「学校行事にできるだけ足を運ぶというのだから、立派な子どもとの関わりだと思っ。おやじの会は、いくつかある方法の一つなので、の家は持たせているけれど、どういう気持ちで持たせているのか、持たせてどんな様子とか、わからなかったでしょう。でも、色々な人から話を聞いているので、自分の子をどう育てていくのか、判断ができるんです。」

親同士のつながりを大事にしながら、ポリシーをもつて子育てをしているようだ。

「最初は物理的に自分が子育てにかかわらなくてはならなかった。でも、今では自分自身の、少なくとも3分の1以上を占めてます、子育てが。」

おわりに

個性豊かなパパたち4人が語る子育ての日常。みなさんはどのように読まれたでしょう。

4人のパパはそれぞれ自分ができる範囲で、子育てや家庭に関わっていました。長い時間をかけたり特別なことをしなくても、日常生活の中でできる子育てでしっかりと子どもとコミュニケーションをとっているのです。もうひとつ共通していたのは、どのパパも「親の役割は、子どもを自立した人間に育てること」と語っていたことです。子どもの将来を見据えて、今、親としてどう教えるか、真剣に考えている姿がそこにありました。

子育て力は、誰でも育てることができません。親として真剣に子どもを愛し、そして地域、学校、近隣の親たちと協力すれば、よりよい子育てができるのではないのでしょうか。そんなことを教えてくれたインタビューでした。

うまく使っていたらいい。子育てと家庭のあり方を模索していきけるいい時代じゃないかなと思いますよ。」

最後に、他のお父さんに向けてメッセージが送られた。

Minami Shuntaro



みなみ しゅんたろう 南 俊太郎さん  
40代・会社員・北区王子在住  
高1・中3・小4のお子さんのパパ

PTA、おやじの会にはまって

小学校のPTA会長を一年、中学校のPTA会長を一年経験。会長を引き受ける前から、よく学校には足を運んでいたという。

「だから、目立っていたようですね。保育園時代は、三人とも送り迎えは、全部私の仕事でした。妻の勤務先が遠く忙しいので、物理的に私がやるしかなかった。私はその区区内に勤務していましたが、保育園や学童クラブの父母会でも、二年間ずつ会長をやりました。」

小学校のPTAは統合直前の二年間、中学校のPTAは統合直後の二年間を引き受けた。大変そうだったが、子どもがお世話になっているので引き受けた。

「PTAというのは、本当にさまざまな立場、職業、考え方の人が集まっています。大

変でしたけど、やったことについては、本当によかったと。先生方や保護者同士で、生き方が変わるような深い話をすることもありました。」

「中学校のおやじの会にも参加しています。今のお父さんは、子どもに関心がある人が多いし、子どもの幸せを願っています。ただ学校の保護者会について平日ばかりです。なかなか学校の様子を見ることができません。それがおやじの会ですと、今日みたいに土曜日の夜に飲みながらやりますから、参加できます。しかも気を遣わなくていい。すごく楽しいです。だから、はまっちゃいますよ、お父さんたち。自分の娘からは、目立つことしないでって言われますが。」

みんなで子育て

おやじの会やPTAをやっているという人な子どもを見ることができるといいと、南さんは言う。より多くの親が関われるよう、提案もされている。

「今、PTAの委員会などは、基本的に夜やることにしたんです。特に中学校になると、お父さんどころか、お母さんの就労率、高いです。今、子育ては、いかに家庭と学校が協力して、信頼しあってやっていくのが大事。小学校もそうですが、特に中学校のように子どもにダイレクトに言ってもだめな時期は特にそうです。そういうときこそ、家庭と学校が連携していかないと、学校も考えている。それなら、保護者会も土曜参観の後にやるとか、

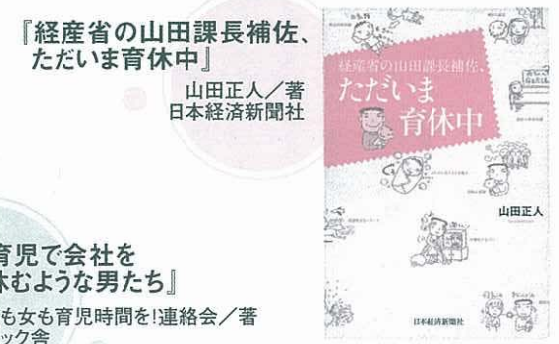
ゆうレポート 13号

“パパの子育て” お薦めBOOK

スペースゆうの情報コーナーの本を紹介し、貸出も行っています。



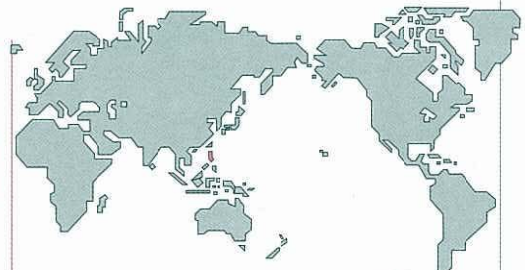
「お〜い父親」 Part I [子育て篇]、Part II [夫婦篇] 汐見稔幸 / 著 大月書店



「育児で会社を休むような男たち」 男も女も育児時間を！連絡会 / 著 ユック舎

「パパを変える魔法の言葉」 藤本裕子 / 著 PHP研究所





# 北区で暮らす世界の女性たち

No.2

## 佐藤エルベさん

交流サークル、PTA活動を通して地域にかかわる



### マヨン山輝くルソン島に生まれる

佐藤エルベさんは、1993年に来日して15年、日本人の夫と結婚して、現在二児の母です。

エルベさんの故郷は、大小約7000の島々からなるフィリピン共和国。フィリピンといえば、光り輝くエメラルドの海、島の数だけ違った魅力を持つリゾート地として有名です。首都マニラの中心は、高層ビルが立ち並びお洒落な街です。一方で少し離れたと、日々わずかな現金を稼ぎながら暮らす人たちのスラムもあります。カトリック信者が90%近くを占め、宗教行事としてクリスマスがとてとても大事にされています。

エルベさんの生まれたところは、ルソン島南東部のピコールという町です。この地方は火山が数多くあり、中でもマヨン山はとても美しい山だそう。故郷にはなかなか帰ることができず、両親とは電話で話すくらいだとい



「国際ママババの集いコアラ」の活動風景。親子で料理を作りました。

### 子育ての原点、「つばさサークル」との出会い

日本での生活についてたずねたところ、来

日前はとも治安がよく暮らしやすい国という印象をもっていたのですが、

来日して

最初は、いまま一番したいことや夢は何かたずねると、「自分のお店を持つこと」と答えてくれました。料理が得意なので、色々な国の料理を作って提供したいそう。また、義理の母が秋田県に一人で行んでいたので、いつか一緒に暮らしたいと話っていて、エルベさんのやさしさが垣間見られるように。随下に店を構え、上の階で家族仲よく暮らす—そんな夢を楽しそうに話してくれたエルベさんでした。

最後、いまま一番したいことや夢は何かたずねると、「自分のお店を持つこと」と答えてくれました。料理が得意なので、色々な国の料理を作って提供したいそう。また、義理の母が秋田県に一人で行んでいたので、いつか一緒に暮らしたいと話っていて、エルベさんのやさしさが垣間見られるように。随下に店を構え、上の階で家族仲よく暮らす—そんな夢を楽しそうに話してくれたエルベさんでした。

見えたことなどたくさんあるよう。時には大変なことや辛いこともあったそうですが、よかったですと感ぜられることが多いとい。PTA活動は、家庭と地域社会が協働して学校や子どもたちを支援する取り組みです。そのうえで保護者が「活動に参加して本当によかった」といえるような時間となれば、なおよいです。男女共同参画社会のモデルとなる活動とも言えます。

### 自分の店で得意料理をふるまうのが夢

日本に来てよかったですことは、子どもが教育を受けられること。まだまだフィリピンでは、様々な事情で教育を受けられない子どもが多いということ。また、色々な所で大人が子どもにやさしく接してくれること。たとえば、ファミリーレストランなどでは、子どもに對しても丁寧に注文を聞いてくれます。それから児童館や図書館などの公共施設が充実していること。北区も住みやすく、ずっと北区に住み続けたいと話してくれました。

逆に困ったことは、漢字が読めないこと。最初は学校のおたよりが理解できなくて苦労したそうです。そんなときもまた、近所の人々が助けてくれ、今でもとても感謝しているといっていました。

最近、近隣にどのような人が住んでいるかわからないことが多いといいますが、ここは地域のコミュニティがしっかりとできてい

フィリピン共和国	
面積	299,404平方キロメートル(日本の約0.8倍)
人口	8,310万人
首都	メトロ・マニラ
民族	マレー系が主体。他に中国系、スペイン系、及びこれらとの混血、更に少数民族がいる
宗教	国民の83%がカトリック、その他のキリスト教が10%、イスラム教は5%
言語	国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語と英語。80前後の言語がある
教育	大学進学率約30%(職業訓練専門学校レベルのものを含む)
日本との関係	貿易相手国(シェア順)では米国に次いで第2位 (参考 外務省HP <a href="http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/cata.html">http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/cata.html</a> )

## 平成20年4月1日～ (短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律) パートタイム労働法が改正されました!

この法律は、パート労働者の適正な労働条件や教育訓練の機会などを確保することにより、その能力が有効に発揮され、福祉が増進されることを目的としています。(第1条)

そのうえでこのたび、少子高齢化と労働力人口減少への対応として、パート労働者のさらなる能力発揮をめざした改正パートタイム労働法が施行されました。

●「パート労働者」ってだれのこと?

「パート労働者(短時間労働者)」とは、同じ事業所に雇用されている通常の労働者(正社員)に比べて、1週間の所定労働時間が短い労働者のことです。「パート」「アルバイト」「契約社員」など名称がさまざまでも、この条件に当てはまればパートタイム労働法の対象となります。(第2条)

### ●改正のポイントは? 雇用主に、以下のことが義務付けられます。

- ① 雇入れ時の労働条件明示と、雇入れ後の説明 <改正法第6・13条>  
<雇入れ前> 昇給、退職手当、賞与の有無などの労働条件を明らかにすること  
<雇入れ後> パート労働者の要請に応じ、待遇決定の際に考慮した事項を説明すること
- ② 働き方に応じた待遇の決定 <改正法第8・9条>  
・通常の労働者(正社員)と職務内容や責任などが同じであり、契約期間が実質的に無期となっているパート労働者については、正社員との差別的取扱いをしないこと  
・その他のパート労働者についても、正社員との均衡を考慮し、職務内容、意欲、能力、経験等を勘案し、賃金を決定するよう努めること
- ③ 正社員への転換措置の整備 <改正法第12条>  
正社員募集の際、既に雇っているパート労働者に募集内容を周知したり、パート労働者が正社員へ転換するための試験制度を設けるなど、正社員への転換を推進する措置を講ずること
- ④ パート労働者からの苦情申し出の対応 <改正法第19・21・22条>  
パート労働者から、労働条件や待遇の差別的取扱いなどについて苦情の申し出があった場合、事業所内で自主的な解決に努めること

パートタイム労働法に関する詳しい情報提供等は、**東京労働局雇用均等室** TEL 03-3512-1611  
各都道府県労働局雇用均等室で行っています。

間もない頃に空き巣被害に遭い、怖い思いをしたということ。それまでの日本のイメージが変わり、とてもショックだったと当時の様子を語ってくれました。

その後、子どもが生まれ、保健所からの紹介で、「つばさサークル」に入会。このグループは、神谷南児童館を活動拠点とした、幼い子どもがいる外国人家族の交流サークルです。毎週水曜日に日本人のボランティアを中心に、育児や家庭、仕事に関する悩みや外国で暮らす不安などについて話しながら、楽しく交流しています。

ここでは、さまざまな人たちとの出会いがありました。参加する方々は、言葉や文化の違いに戸惑いながらも、みな懸命に子育てをしているとのこと。子育てがとて不安だったエルベさんは、ここでの交流を通してたくさんの知恵と勇気をもたらすと、うれしそうに話していました。エルベさんの子育ての原

点は何かにあるよう。上の子が小学生になったとき、「つばさサークル」を巣立った人などで構成される「国際ママババの集いコアラ」に入会しました。今年で、入会して11年目。今では代表として活躍しています。このサークルにも通いながら、日本語を学ぶために、中央公園でボランティアグループが行っている勉強会にも参加し、少しずつ言葉を覚えていきました。

さらにPTA活動にも参加。ここでもがんばりやのエルベさんが顔を覗かせます。現在、子どもは小学校6年生と3年生。PTA活動歴は、今年で6年になります。日本人でも、こんなに長い活動歴をもつ人はなかなかいません。PTA活動をやってよかったですことは、色々なお母さんたちに出会えたこと、そしてそのことだそう。また、PTAのお手伝いをする子どもが喜んでくれたこと、学校に行くようになって、子どもたちの様子が

### 積極的に活動の場を広げて

情報コーナー

6月28日(土)～7月5日(土)は、北区男女共同参画週間です

国では、男女共同参画社会基本法施行を記念し、平成12年から男女共同参画週間を設けています。北区でもこれに合わせて独自の男女共同参画週間を設定し、「スペースゆう」を会場に、さまざまな催事を行います。ぜひご参加ください。

〈男女共同参画週間中の行事一覧〉 ※すべて入場無料

日 時	行事名	内 容	講 師	対象・定員	申込方法 (I～III共通)
I 6月29日(日) 午後2時～4時30分	地域に広げよう!男女共同参画一みんでワーク・ライフ・バランス	3名のパネリストが、各専門分野の立場から、北区男女共同参画条例の活用や、ワーク・ライフ・バランスなどについて語ります	・池上千寿子氏 (ぶれいす東京) ・橋本ヒロ子氏 (十文字学園女子大学) ・山田正人氏 (経済産業研究所)	・誰でも参加可能 (150名)	電話・FAX・Eメールで、参加希望講座名・氏名・住所・電話番号を連絡  ※IIに親子で参加の場合は、子どもの氏名と学年も連絡  TEL 03 (3913) 0161 FAX 03 (3913) 0081 E-mail: danjo-c@city.kita.lg.jp
II 7月5日(土) 午前10時～12時	きみは、ちっとも悪くない—自分を守るためのトレーニング(CAP)	子どもが犯罪から自分で身を守る方法、大人が子どもをケアする方法を、親子で学べる講座です	PEACE暴力防止トレーニングセンタースタッフ	・区内在住の 小学1～3年生 ・上記の保護者および 関心のある大人の方 (各30名)	
III 7月5日(土) 午後2時～4時30分	ジャッジ!DV—判定するのはあなたです	DVを題材にした模擬裁判を行います。21年5月の裁判員制度導入を前に、実際の裁判のプロセスを体験してみませんか	・大谷恭子氏 (弁護士) ・矢野史子氏 (弁護士) ・谷田川知恵氏 (大学非常勤講師)	・誰でも参加可能 (40名)	
IV 前期/6月25日(水) ～7月6日(日) 後期/7月9日(水) ～20日(日)	スペースゆう企画展 「平和を紡ぐ1000人の女性たち」展	世界で活躍する女性をノーベル平和賞に推薦する、プロジェクトの写真展を行います	申込不要。左記期間中は、開館時にいつでも鑑賞できます。		[協力] 学びあう活動の場をつくる会

スペースゆうの  
お薦め図書

スペースゆうの情報コーナーには、性別や年齢にとられない、自分らしい生き方をするうえで役立つ資料が揃っています。ぜひお立ち寄りください。

『赤いコートの女 東京女性ホームレス物語』  
宮下忠子著/明石書店/2008

路上生活を送る女性に長年寄り添ってきた著者による、女性たちの再生の記録。絶えず性暴力の危険が迫る路上に生きる女性たちと、支援に奔走する筆者の姿から、社会のあり方が問いかけられてくる一冊です。



『Say "No!" "やめて!" といおう』  
岩崎書店編・安藤由紀監修/岩崎書店/2004

夜間の一人歩き、留守番、インターネットや携帯電話利用時などの日常的な事例に即し、子どもが自分で身を守る方法を紹介します。7月5日(土)開催の講座「きみは、ちっとも悪くない—自分を守るためのトレーニング」の講師監修によるものです。



表紙紹介 GALLERY

作 / 水越みかる  
作品 / 「江戸墨画 しまもやう 碁盤縞(ごばんしま)」

江戸時代の小袖(現代の和服のもととなった着物)の代表的な模様である「縞」を主題にした、連作『江戸墨画 しまもやう』の一点。囲碁や将棋、双六盤など、正方形の格子文様を題材に、老人と孫が遊ぶ様子をユーモラスに描いた作品で、2007年にスペースゆうの展示コーナー「ギャラリー遊」を飾りました。



男女共同参画センター「スペースゆう」へ来てみませんか?

所在地 〒114-8503 北区王子1-11-1 北とびあ5・6階  
TEL 03-3913-0161  
FAX 03-3913-0081

男女共同参画センター  
スペースゆう

JR王子駅 北口  
三菱東京UFJ BK  
みずほBK  
5番出口  
北とびあ  
至赤羽方面  
東武ストア  
明通通り  
王子駅前公園  
公証役場  
北谷町

平成20年度最初の「ゆうレポート」は男性による育児特集しました。「男女共同参画白書(19年版)」によると、未就学児をもつ父親の帰宅時間をソウルや上海など4都市と比較した場合、東京では23時以降の帰宅が最多で、20時から0時にかけての帰宅者が6割を占めています。保育園の送迎などの場面で父親の姿を見る機会も増えているとはいえ、労働時間の長さや社内制度の不備など、男性の育児参加を困難にする要因はいまだ少なくないようです。その中でも、今回ご登場いただいた4人のパパのように、できる範囲で工夫しながら子どもとの時間を確保したいものです。子どもと過ごす時間、自分のための時間を大事にすることは、新たな視点を生み、仕事や人生の充実にもつながるのではないでしょうか。

東京メトロ南北線王子駅5番出口直結  
JR京浜東北線王子駅北口徒歩2分  
都電荒川線王子駅前下車徒歩5分

編集後記